

[H28年頭訓示]

H28-1-7

矢野弘典

着実前進の年としよう

明けましてお目出度うございます。今年も宜しく申し上げます。

今年は、暖かく過ごしやすい正月でした。皆さんは、それぞれに英気を養われたことと思います。新しい年を迎え、新しい気持ちで、共に力を合わせて良い1年といたしましょう。

私は本年を「着実前進」の年にしたいと考えています。

皆さん、昨年は1年間、頑張ってもらって本当に有り難うございました。お陰様で、懸案だったセンターの法人化が実現し、新規事業も着々と進み始めました。昨年初には「改革と実行」の年にしようと申し上げましたが、皆さんのご尽力で、将来に向けて貴重な第一歩を踏み出すことができたと思います。

いつも干支の話しで恐縮ですが、今年の干支は「丙申」(ひのえさる)です。「丙」は成長が始まり明白となる姿、「申」は果実が熟する様を表します。いよいよこれからという、センターや三公社の立ち位置にピッタリではありませんか。昨年スタートさせた組織の方向付けを、今年は着実に前進させ実らせねばなりません。

「着実前進」を、なぜ今年目標としたかについて説明します。事業をやっていく上で大切なことは、一つは結果であり、一つはそこに至るプロセスです。どちらも大切ですが、どちらが先かと問われれば、プロセスが先です。結果は事業の目標ですから、それを見失ってははいけません。長期的に多面的に考えて、戦略的な目標を持つことが大事です。しかし、間違いなく長続きする優れた結果は、着実な一步一步のプロセスの中から生まれるものです。たまたま上手

くいくこともあるでしょう。しかし、そうした僥倖に満足しては、私たちの将来はありません。確かなプロセスの欠けた結果は、砂上の楼閣です。プロセスとは当たり前のことを、当たり前に日々やり続けることです。誠実に日常の業務をやっているか、手抜きはないか、お客様の声に耳を傾けているか、その求めに親切に答えているか。そうした毎日の一人ひとりの心構えと行動が、事業の成否を決めるのです。

センターが昨年4月に法人化し、一般社団法人ふじのくにづくり支援センターとして衣更えしたことは、画期的なことでした。関係者の皆さんには、深く敬意を表します。三公社も含めた事業全体の方向性が、大きく変わりはじめたことを実感します。単に四番目の法人が産まれたのではなく、実質的には全体を統括する組織が誕生したと受け止めてください。小さく産んで大きく育て、センターの一体化をさらに進め、社会的にも存在感を高めたいと思います。三公社を含めたセンター全体として、事業の持続可能性を追求しなければなりません。そのための方策が「着実前進」であります。

さて、経営のあり方の基本は、これまでと同じです。何の奇策もありません。次の三つですが、お互いに深く関連し合っています。

第一は、「お客様とともに歩く」経営理念を徹底する。

第二は、既存事業の質を高め、新規事業に挑戦する。

第三は、予算を達成し、健全経営を実現する。

第一の点は、私たちの仕事に対する姿勢です。何よりも大切なことは、「お客様とともに歩む」経営理念を肝に銘じ、常住坐臥それに徹することです。それがアクセサリーかお題目に墮していないかどうかを、謙虚に反省しましょう。クレームや要望には時に極端な事例もありますが、お客様との接点として大切に受け止め、真摯に耳を傾け、できることとできないことを分けて、迅速かつ丁寧に説明し、納得して頂く努力が必要です。お客様の喜びが反映して私たちの喜びとなるような、職場風土を育てたいと思います。

第二の点は、先ずは基盤となる既存事業を、各公社単位にしっかりやりましょう。言いかえれば、細かいところにまで気を配り、サービスの質を高め、効率化を進めていくことです。現場の目で見れば、改善すべき種は無数にあるはずです。暮には各種の表彰を行いました。現場感覚に優れたものばかりで、改めて心強く思いました。このようにして既存事業の内容を充実しながら、同時に新規事業に挑戦していきたいと思えます。センターでは、道路関連で昨年中に市町の発注業務や道路パトロールで具体案件を受注し、土地関連でも県と連携して地籍調査への検討が始まりました。市町の事業支援という点では、住宅公社や土地公社で準備が進んでいます。新規事業の開拓は、いわばセンターと公社の将来の礎を作る仕事です。そして、仕事が増えて人も増える、成長する団体に育てていこうではありませんか。それが未来を創る今の私たちの務めだと思えます。

第三に挙げた経営の健全性とは、いつも申し上げていますが、「決算の健全性」「資産の健全性」「信用の健全性」の三つを意味します。毎期の決算が赤字続きでは組織は持ちません。バランスシートの健全性も当然のことです。資産内容には、常に気を配らねばなりません。信用の健全性は数字には現れませんが、世間の信用を失墜すれば奈落の底に沈むように数字も悪化して、組織は持たなくなります。それぞれの部門の責任者には、常にこの三つの健全性に目を配って頂きたいと強く要望します。各部門には中長期計画があります。年々それを見直した結果、直近の年度計画が新年度予算となります。ぜひ全員参加で予算と計画を作り、実現に向けて取り組んで頂きたいと思えます。

終わりにあたり一言申し上げます。ご家族ともども、身心の健康に留意して下さい。そして、悔いのない一年といたしましょう。

明るく、元気で、仲よく、厳しく！

以上